

# 北海道開発局 冬期における津波災害対応・復旧支援方策検討会(第2回) 議事要旨

## 1. 検討会概要

日 時：平成26年2月26日(水) 15:00~17:00

場 所：札幌第1合同庁舎10階 1号共用会議室

委 員：高野 伸栄 座長 北海道大学大学院 公共政策学連携研究部 准教授

岸 邦宏 委員 北海道大学大学院 工学研究院 准教授

今井 秀明 専門委員 北海道建設業協会 常務理事

小軽米 博 専門委員 日本建設機械施工協会 北海道支部 企画部会委員

佐々木和安 専門委員 北海道建設機械レンタル協会 副会長 [五十音順、敬称略]

## 2. 議事要旨

事務局より資料について説明後、各委員にご討議いただいた。委員からの意見等を整理すると以下のとおりである。

### <資機材保有状況調査>

1. 精度に課題はあるが、地域別の資機材保有状況の傾向が分かったことは、災害発生後の対応において、重要な参考資料になる。
2. レンタル機材は業者毎にコンピューターにより在庫(稼働)管理が行われているが、道内の建設機材を業界・企業横断的に全体としてリアルタイムで一元管理しているところはない。ただし、最近の機材にはGPSが内蔵されているものもあり、リアルタイムでの位置の把握が可能である。
3. 今回の調査により、重機を運搬するトレーラの地区別保有台数について、明確なデータがないことが明らかになったことは、大きな成果であり、今後把握すべき重要な項目である。
4. 東日本大震災後のがれき撤去の際に有効であった、掴み機能を持つアタッチメントの保有状況については、実態を把握できていないのが現状である。

### <資機材支援のモデル的な検討の条件設定>

5. 災害時の資機材支援では、機材をトレーラで輸送する必要があり、各地域のトレーラ台数によって、支援機材輸送台数が制限される。このため、今回のモデル的な検討にあたっては、支援地区の資機材は、支援地区が保有するトレーラ全てを用いて運搬する条件とし、往復運搬時間とリードタイム(積降ろし等の時間を含む)を考慮して計算する前提条件が妥当であると考えた。

### <資機材支援のモデル的な検討の結果>

6. 今回のシミュレーションは、様々な仮定条件を設定して実施しているため、結果の定量的な評価は難しいが、冬期における資機材支援を検討する上での傾向を把握することは可能となった。対応の方向性を考えていく上では、非常に重要な成果が得られた。

7. オペレータやアタッチメント、トレーラ台数、燃料、夜間作業用照明による作業時間の延長等の条件については、実際の災害発生時に考慮が必要な要素となるが、これらについて、確かなデータが無いということを把握しておくことが非常に重要であり、今回の検討の意義がある。
8. 災害復旧活動等で稼働する資機材の燃料確保については、燃料備蓄タンク(苫小牧等)があり、道内各地に油槽所もある。タンクローリー台数の把握や、協定締結等が必要といった課題があるが、運用方法によっては対応が可能ではないかと考えられる。管轄する関係機関との協議等も必要と思われる。
9. 高速道路ネットワークの着実な整備によって、資機材の支援スピードが速まり、がれき撤去時間が短縮されると考えられる。
10. 緊急輸送路の確保にあたって、北海道の地方部は本州と違い、建物のない海岸線が続いている箇所が多く、このような場所では、ブルドーザを用いてがれきを横に押し出すことで応急の対応もできるのではないかと考えられる。
11. 被災地側から支援機材の要請を行う際には、発信された情報が、二重、三重にカウントされることが課題となる。この対策として、行政の指導により情報の一元管理を行う必要がある。
12. レンタル事業者が保有する機材は、貸し出し中の場合には客先に占有権があるが、災害時に国からの要請ということであれば客先も応じて、支援機材として使用することも可能だと考えられる。
13. 道内の沿岸地域では内陸から複数のルートで沿岸にアクセスすることが困難な場合があり、海路による支援の有効性が示されたことは、今後の復旧活動を検討する上で重要な考え方が示唆されたといえる。
14. 空輸可能な分解組み立て式バックホウは機動性があるが、保有台数が少ないということで、どこに投入することが最も有効かシミュレーションしておくことも重要である。

#### <地域における冬期津波対策の情報発信手法の検討>

15. 北海道内には、まだ、携帯電話の不感地域が残されている。公共的な観点から、不感地域解消に向けた取り組みも必要ではないかと考えられる。
16. 災害時に有用な避難のためのスマホアプリは民間レベルでの取組が先行しており、国(公共としても)連携して、地域特有の課題に対応する情報提供の内容(冬期対応、観光客・外国人対応等)を加えることも必要と考えられる。

以 上